

新時代を築く印刷学術文化交流

印刷教育研究会顧問/

国際印刷大学校長・九州産業大学名誉教授 木下 堯博

2006年11月22日～25日まで渡韓し、(株)斗山印刷で印刷技術に関する教育・研究の指導を行なった。2006年4月26日にIPEX2006の帰朝報告(1)をした東国大学校(ソウル市)で韓国印刷学会(www.kgcs.org)の総会と秋季研究発表会が開催された。この総会で(株)斗山印刷の呉圭南代表が産業界から始めて会長に選出され、2009年までの3年間、学会の舵取りをすることになった。(写真)

韓国印刷学会は1982年に設立されたが、1980年に釜山工業専門大学校(現、釜慶大学校)の故金成根印刷工学科の主任教授の招聘でかつて講演会などをした。(2)

この時、学会設立に関する諮問を受け、日本やアメリカなどの学会事例を紹介したことがあった。学会設立後、研究・教育面での交流が続き、印刷教育研究会も韓国印刷学会との相互交流(3)を数回して来たが、21世紀に入り、各国(中国、ロシア、台湾、アメリカ、ドイツ、フランス、イギリスなど)との新しい印刷学術・文化交流が根づき始めた。

最近では2005年12月27日の国際印刷産学情報交流会(京畿道安山市)(4)、IPEX2006でのPIRA,LCCやケンブリッジ大学との交流、2006年11月10日開催の日本印刷学会秋期研究発表会(福岡市)で釜慶大学校の印刷専攻の李相南教授の招待講演(5)などがあった。

韓国印刷学会はアメリカのTAGAと同じ傾向で実学的研究領域が多く、例えばCIP4/JDF、高付加価値印刷、APPE、CMSなどがあり、そのため印刷専攻コースを有する大学が増加傾向にある。日本印刷学会は素材関連の研究が多く、若干方向性が異なる。(6) そのため、印刷系教育機関の減少の一因に繋がっているのではと考えている。

韓国では生産性向上のためSingle PPMなどを導入(今回、見学した斗山系列で金属印刷をしている三和クラウン)していてケースがあり、日本ではPPORF(ポルフ)活動を行なっている印刷企業もある。2006年10月ポルフの国際会議(7)が東京で開催され、日本の水上印刷(株)が研究発表を行なった。日韓それぞれ独自の活動を行なっているが相互交流が望ましい。また、韓国の印刷会社は社会に貢献することを目的として博物館や資料室を設置している場合が多い。企業の社会的貢献(CSR)ISO26000への取り組みが活発(8)である。IT関連企業ではサプライチェーンを含めたEICC基準をまとめ、グローバル化に対処している。これらはGoogleの検索で確認することが出来る。

すべての分野で持続可能な社会及び産業を目指すには、過度の競争を排除し、品質、価額、納期、環境、労働、人権などの基本問題をクリアーし、21世紀の新しいグローバルな印刷学術文化交流を促進し、「東アジア出版印刷拠点」を目標として、活動することが必然である。

そのため、両国の印刷学会及び印刷教育研究の役割は新しいビジネスモデルによる印刷学術

文化交流を促進し、世界の印刷界発展のために貢献することが望まれる。

(2006年11月25日記、ソウル世宗ホテルにて)

参考文献

(1) 木下堯博；東国大学校設立100周年記念で総長らの表敬訪問、修士課程印刷画像専攻 (drupa2004の時、設立)を視察、新設のコロイドセンターでIPEX2006の報告、5月19日CD勉強会・国際印刷大学校共催で日本印刷会館での報告などすべて国際印刷大学校のHP(www.media-line.or.jp/igu)を参照して下さい。

(2) 木下堯博；印刷情報、40[9]57～62(1980)

(3) 木下堯博；プランナー、31[10]63～67(1994)

(4) 木下堯博；国際印刷大学校研究報告、6 2～7(2005)

(5) 李相南；日本印刷学第117回秋期研究発表要旨別刷(2006年11月10日)

(6) 三浦澄雄；国際印刷大学校研究報告、5 12～15(2005)

(7) 第7回 ポルフ国際大会要旨(2006年10月11日、於・東京都品川区きゅうりあん)

(8) 富士精版印刷社内報、富士No140 pp52～53(2006-2)

写真；韓国印刷学会の懇親会(東国大学校)にて；前列左から2人目新会長の佛斗山印刷代表の呉氏、4人目東国大学校大学院印刷専攻李教授、筆者は3人目



(印刷教育研究会巻頭言会報原稿 2006年12月8日発行)